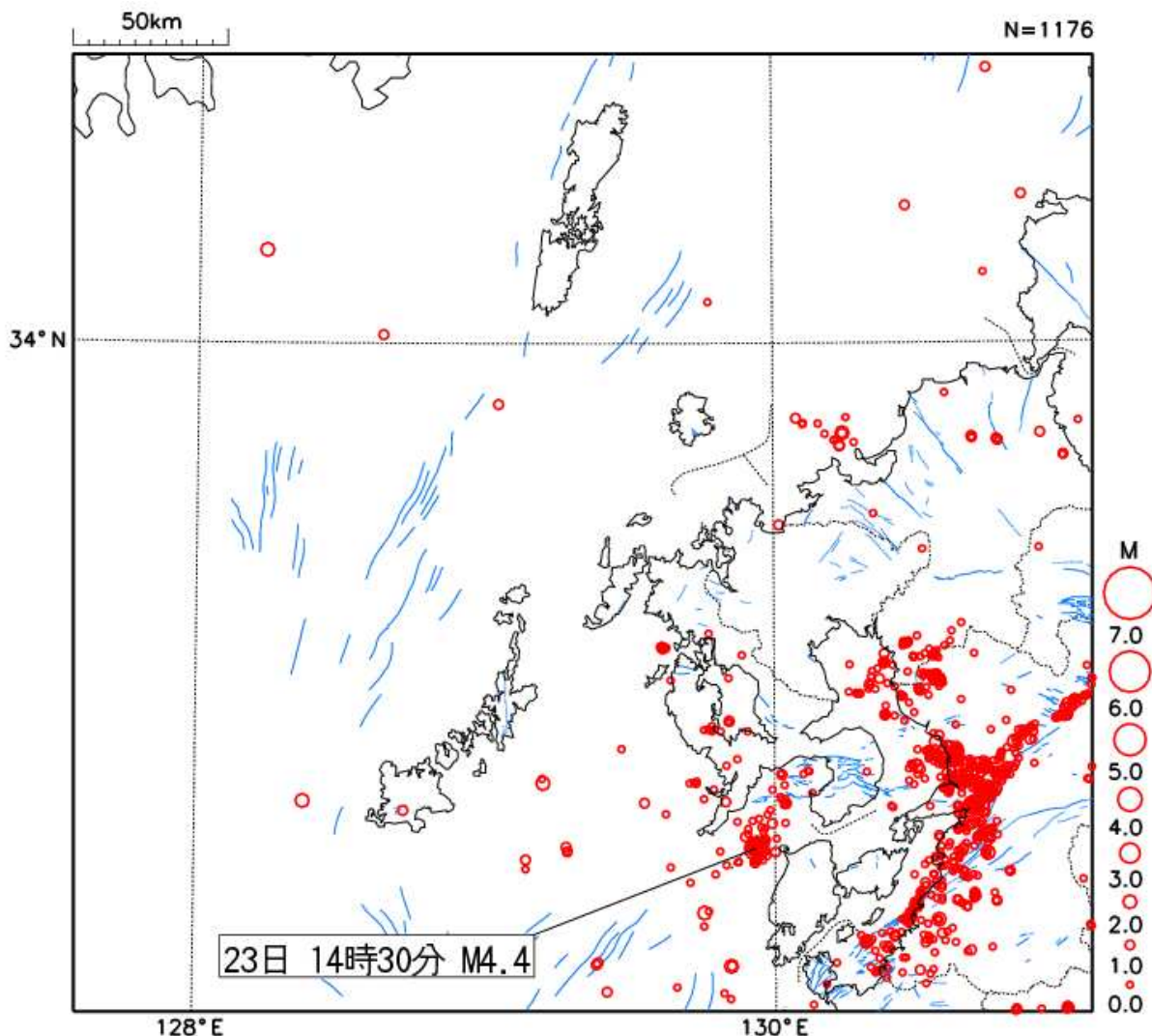
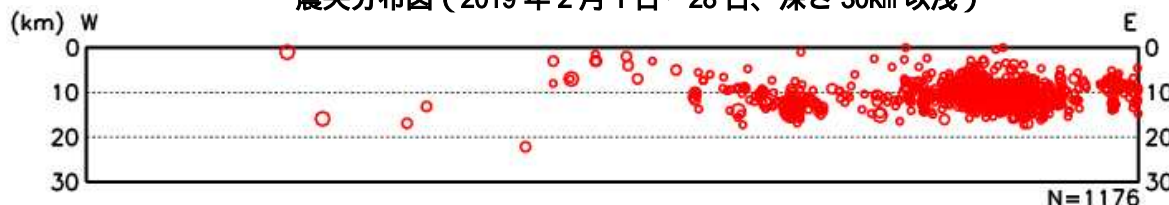


長崎県の地震活動概況 (2019 年 2 月)

平成 31 年 3 月 8 日
長崎地方気象台



震央分布図 (2019 年 2 月 1 日 ~ 28 日、深さ 30km 以浅)



断面図 (2019 年 2 月 1 日 ~ 28 日、深さ 30 km 以浅)
(震央分布図を南の方から見た断面図です)

地震活動の概況 (2019 年 2 月)

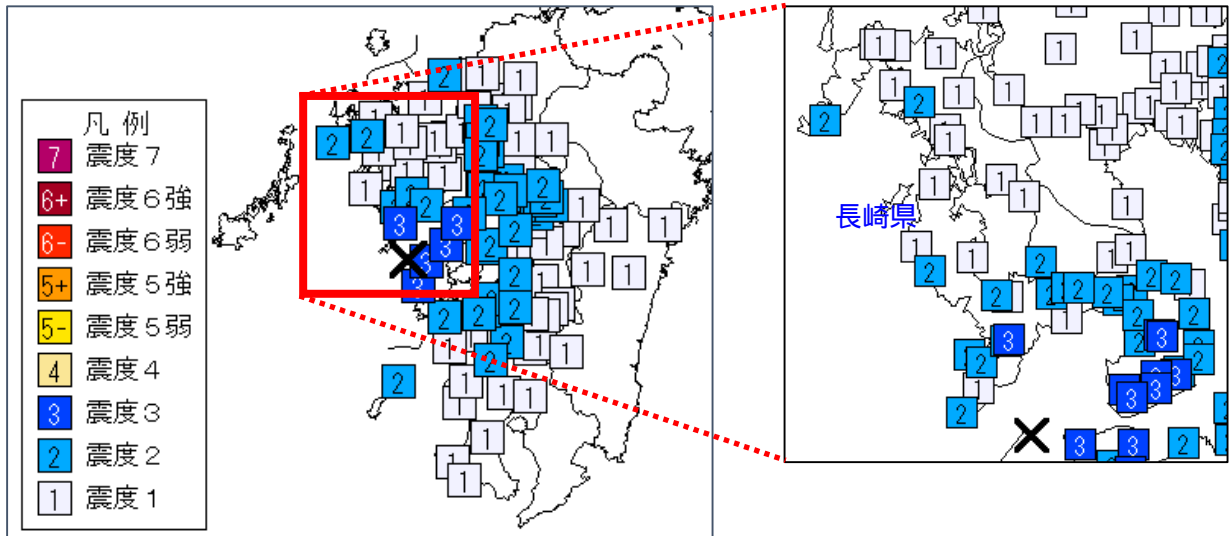
2 月に長崎県内で震度 1 以上を観測した地震は 1 回でした (1 月 : 6 回) 。
詳細は次頁以降のとおりです。

本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す (活断層のデータは新編日本の活断層による) 。
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座) 、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成している。

天草灘

23日 14時 30分に天草灘で発生した M4.4 の地震（深さ 14km）により、長崎県、熊本県で震度 3 を観測したほか、九州地方で震度 2 ～ 1 を観測しました。長崎県では長崎市、雲仙市、南島原市で震度 3 を観測したほか、県内の広い範囲で震度 2 ～ 1 を観測しました（図 1、表 1）。

この地震の震源付近（図 2 領域 a）では、M 3 ～ 4 クラスの地震が時々発生しており、2007 年 9 月 24日に発生した M4.1 の地震（深さ 14km）により、長崎県、熊本県で震度 3 を観測したほか、福岡県、長崎県、熊本県、佐賀県および鹿児島県で震度 2 ～ 1 を観測しました。長崎県では長崎市、時津町で震度 3 を観測しました（図 2、図 3）。



2月23日 14時30分 M4.4
図 1 震度分布図（左図は市区町村別、右図は観測点別 ×：震央）

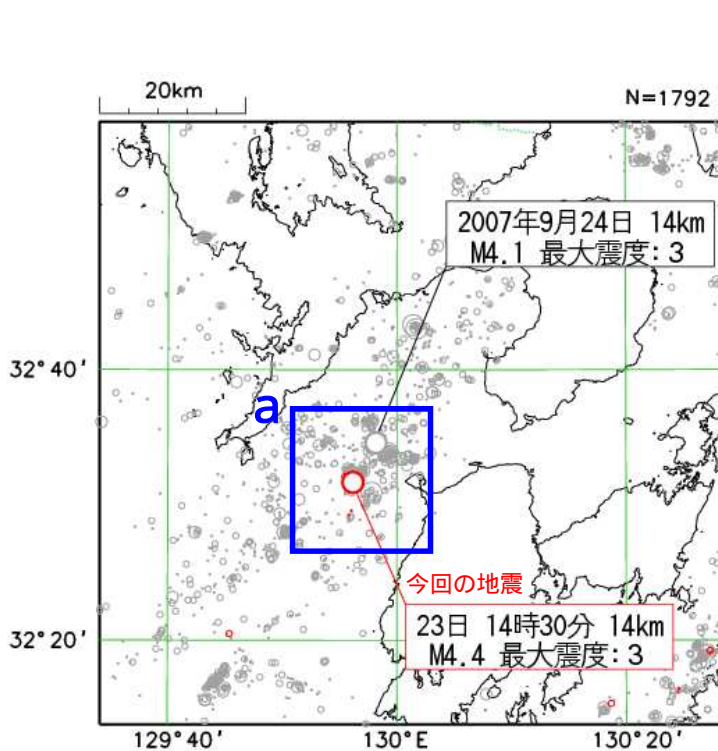


図 2 震央分布図

（1997年10月1日～2019年2月28日 深さ0km～30km M 1.5）
2019年2月の地震を赤で表示

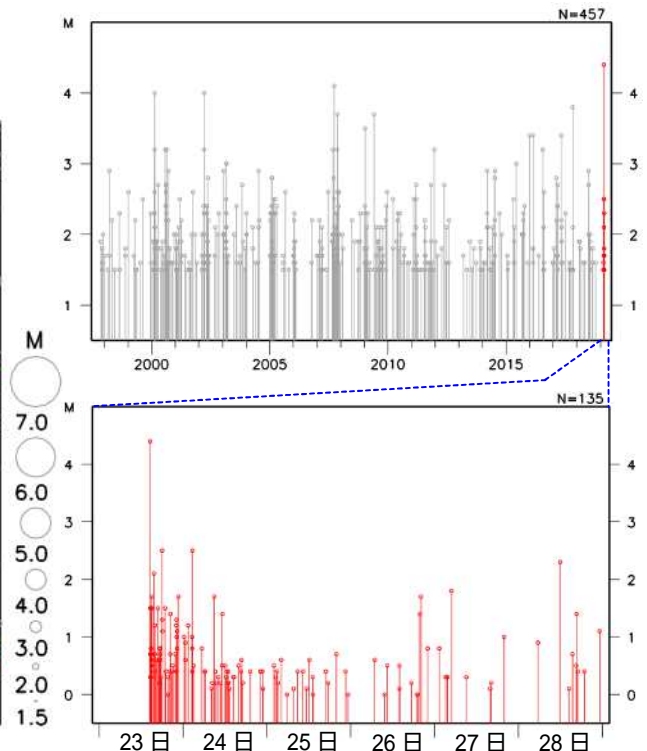


図 3 図 2 領域 a 内の地震活動経過図

上段：1997年10月1日～2019年2月28日
下段：2019年2月23日～28日 Mすべて

表1 この地震により長崎県内で震度1以上を観測した地点

1	2019年02月23日14時30分 天草灘 32° 31.6' N 129° 56.1' E 14km M4.4	
長崎県	3	長崎市元町* 雲仙市小浜町雲仙 雲仙市雲仙出張所* 南島原市口之津町* 南島原市南有馬町* 南島原市北有馬町* 南島原市西有家町* 南島原市加津佐町*
	2	平戸市志々伎町* 佐々町本田原* 長崎市南山手 長崎市野母町* 長崎市香焼町* 長崎市伊王島町* 長崎市神浦江川町* 諫早市東小路町 諫早市堂崎町* 諫早市多良見町* 諫早市森山町* 大村市玖島* 時津町浦* 島原市下折橋町* 雲仙市国見町 雲仙市千々石町* 雲仙市愛野町* 雲仙市瑞穂町* 雲仙市吾妻町* 雲仙市小浜町北本町* 南島原市布津町* 南島原市深江町* 南島原市有家町*
	1	佐世保市干尽町 佐世保市八幡町* 佐世保市世知原町* 佐世保市鹿町町* 平戸市岩の上町 平戸市鏡川町* 平戸市田平町* 松浦市志佐町* 東彼杵町蔵本* 川棚町中組* 長崎市黒浜町 長崎市長浦町 諫早市小長井町* 諫早市飯盛町* 諫早市高来町* 長与町嬉里* 西海市大瀬戸町* 西海市西海町* 島原市有明町*

注1) 震源要素(緯度・経度・深さ・M)は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注2) *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

「液状化現象」について

液状化現象とは、地震により強く揺らされた地面が液体のようになる現象で、水を多く含んだ砂の地盤や埋立地などで起こります(図1)。液状化現象が起こると、その上に建てられたビルや電柱が傾いたり、地中の土管やマンホールが浮き上がったりするなど、私たちの生活基盤にも大きな被害が出る可能性があります。

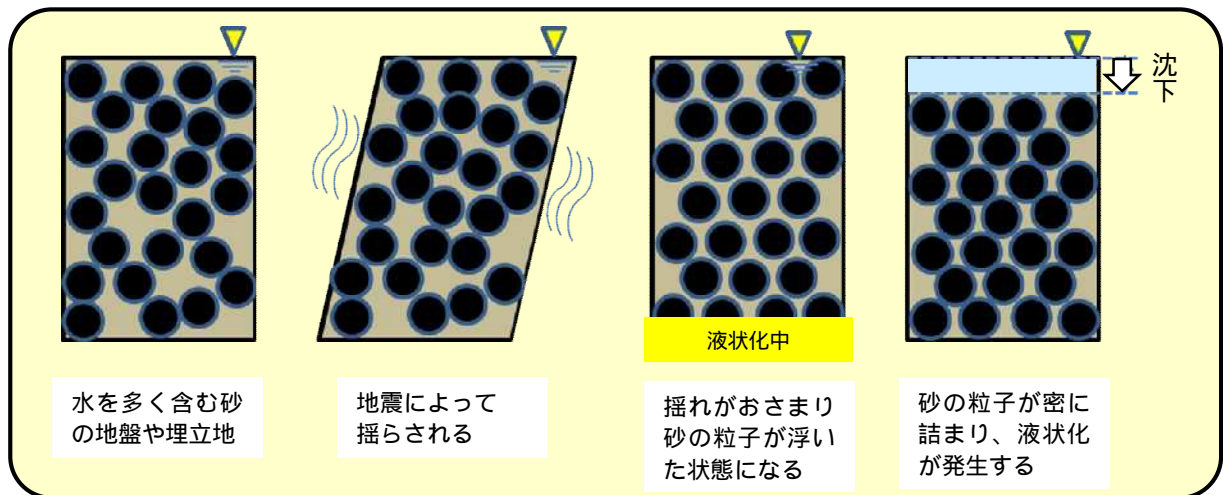


図1 液状化が発生するまでの流れ
(東京大学出版会「日本の液状化履歴マップ745-2008」を基に加筆)

この液状化現象により、1964年の「新潟地震」では河畔の住宅が大きく傾いたり空港の滑走路が冠水したりするなどの被害が出たほか、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」や「平成30年北海道胆振東部地震」でも市街地で地中のマンホールや貯水タンクが地表に浮き上がるなどの被害が出ました(写真1)。九州では、2005年3月20日の福岡県北西沖(当時の震央地名は福岡県西方沖)の地震や平成28年(2016年)熊本地震でも液状化現象による被害が発生しました。

長崎県は、「長崎県地震等防災アセスメント調査報告書(平成18年3月)」により、県内で液状化の危険性が高い場所を示した地図を作成しています(図2)。

http://www.pref.nagasaki.jp/sb/preparation/001/assessment/pdf/nagasaki_pref_seismo_assessment.pdf



写真1 マンホール周辺の道路の陥没(札幌清田区平岡地区)
(平成30年北海道胆振東部地震現地調査報告より)

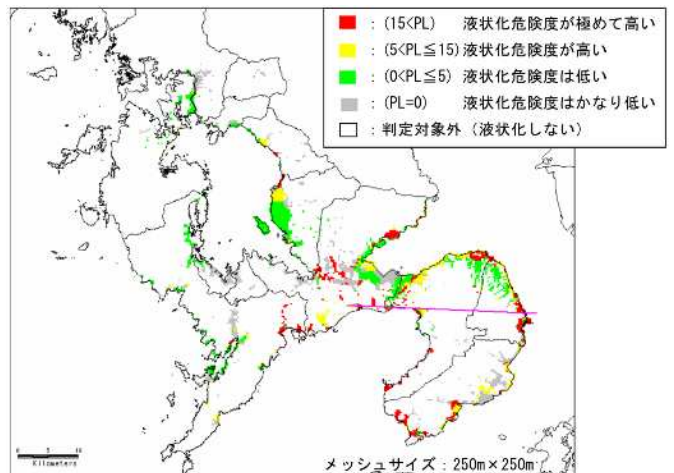


図2 液状化危険度の分布(雲仙地溝北縁断層帯)
(長崎県地震等防災アセスメント調査報告書より)